

■（１６２）被災の地を踏んだ記者は、絶対に忘れない

３月１１日。東日本大震災から１年、２年、３年の節目の日の朝刊を、朝日新聞のデータベースで検索してみた。見出しで目につくキーワードは、順に「見通したたない」「復興」「忘れないため」。紙面からは、「関心の薄れ」を心配する被災者の声が聞こえてくる。

地震・津波の記事を発信し続けた岩手県から東京に戻ってまもなく丸２年。都心のビルの中で、首都直下地震に襲われた場合、新聞社はどう動いたらいいのか、をシミュレーションしてきた。想定なのでやむをえないが、どこか机上の議論になってしまう。反省しながら、東日本大震災を「忘れない」とあらためて誓う。

さらに、もうひとつ忘れないと誓った地下鉄サリン事件から、この２０日で１９年。あの日の朝、都心を駆け回る救急車のサイレンの音、サリンと判明したときの恐怖……。最初に騒ぎになった場所が新聞社そばの地下鉄駅だった。時間がたっても、「現場」を踏むと、伝え続けようと気持ちを新たにできる。

被災地に戻りたい。２年前から抱いていた希望が４月にかなう。被災直後の惨状を知っている記者として、４年目の被災地から何を伝えられるか。岩手・釜石発で挑戦する。（山）